

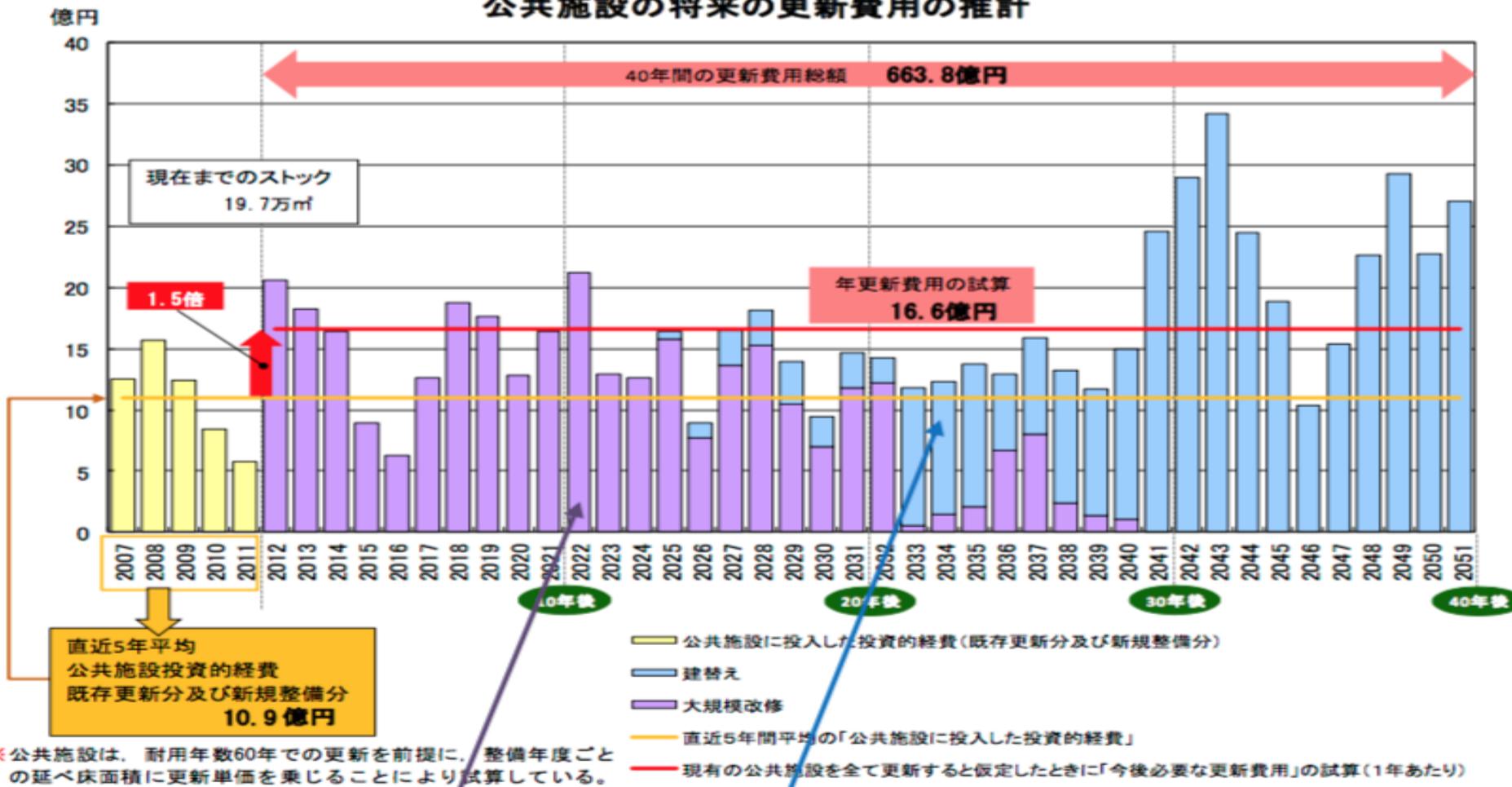
公共施設マネジメント 「拡充」から「縮充」への発想転換

東洋大学客員教授
南 学

「時限爆弾」としての公共施設

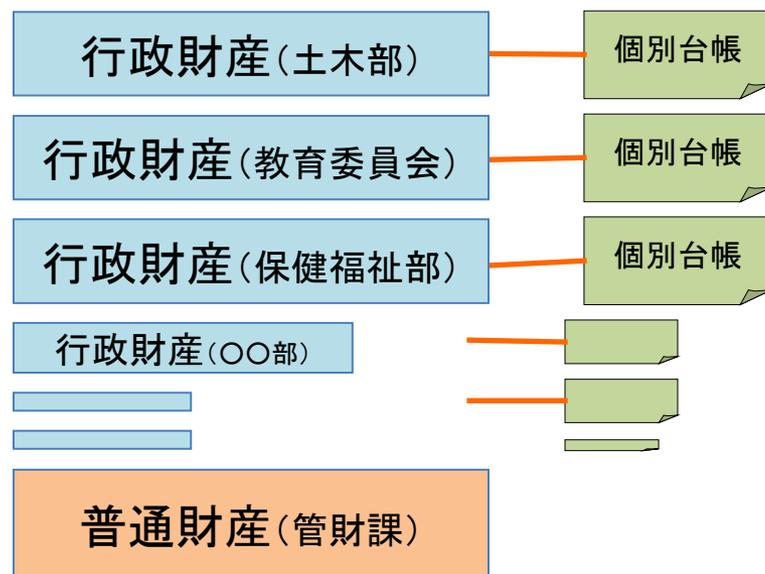
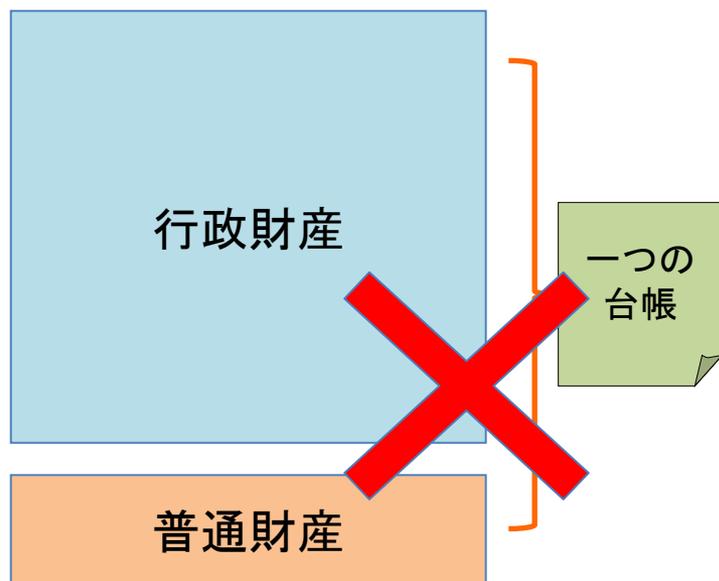
- 市民の生命と財産を脅かす「時限爆弾」
- 更新費用の財源が確保されていない

公共施設の将来の更新費用の推計



なぜ「公共施設総合管理計画」か

- 「公共施設」の縦割り構造
- 行政財産なので、条例で規定。担当部署も固定
- 全体の状況が見えにくく、変化にも対応しづらい



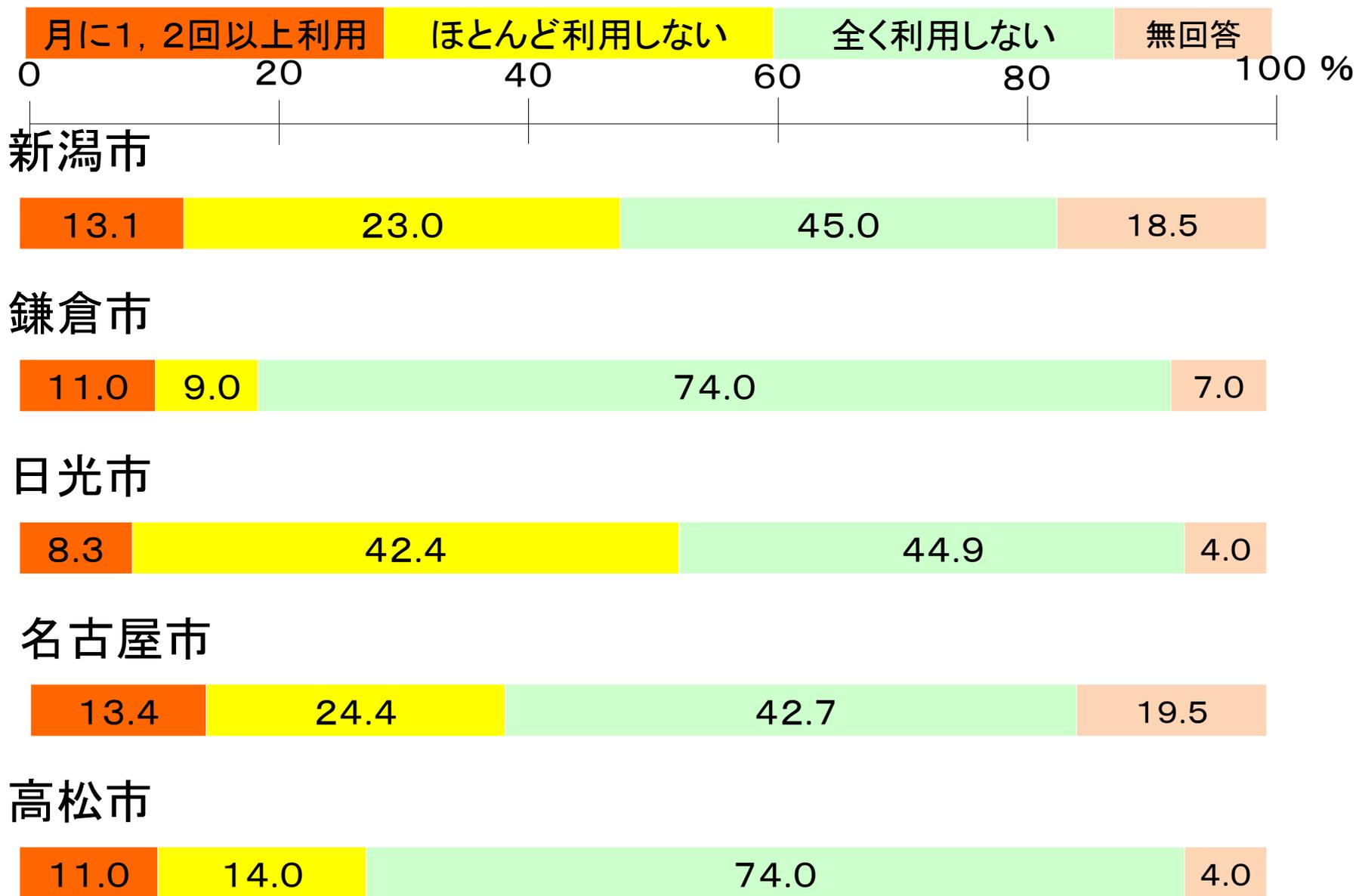
稼働時間は非常に少ない

学校施設の稼働率試算

■ 月	10か月	80%
■ 週	5日間	70%
■ 日	7時間	30%

$$1.0 \times 0.8 \times 0.7 \times 0.3 = 0.168 (16.8 \%)$$

公立図書館の利用状況(無作為抽出による市民アンケートの結果)



図書館機能は複数、利用は少数

- 10%前後の図書館利用者(年間30回以上は0.1%)
- 中心サービスは貸し出しと子どもへの読み聞かせ
- 暇つぶし? 調査研究? 交流? 自習?
- 利用図書の厳選で、閲覧スペースを産み出す
- 専門図書は、県立や近隣市の図書館を活用
- 貸出、閲覧のみなら無人図書館や自動貸出返却機
- 美術館、博物館の「毎日開館」は必要か

身近なスポーツは多目的室で

- 身近なスポーツに使いにくい体育館
- 人気は、ヨガ、社交ダンス、フラダンス、卓球
- プールとマシン、スタジオなら民間施設の活用
- 半田市成岩中体育館はスポーツクラブの運営
- 特定団体の利用が多い（負担は全市民）
- リハーサル室は予約で満杯（音楽室の需要）

公共施設マネジメントの「方程式」

財源確保
(課題)

=

総面積の統廃合
(面積圧縮率)

+

民営化
(経費圧縮率)

+

受益者負担増
(受益偏在改善率)

+

遊休資産活用
(売却・貸付率)

単純な面積圧縮ではない(縮充で)

行政サービスの「ポートフォリオ」

限定された財源

＝

福祉・医療
(介護・健保)

+

公共施設マネジメント
(縮充)

+

防災・防犯
(命と財産)

+

教育
(次世代への投資)

+

道路・上下水道料
(生活インフラ)

市民による選択肢が提起されている